



「第26回めいろう大花火まつり」の実行委員を務めました瀧澤麻奈です。

今年初めて「めいろう大花火まつり」の実行委員として運営に携わりました。わからないことも多く、戸惑う場面もありましたが、法人総務部の職員をはじめ、多くの方々にご協力をいただきながら、準備や当日の運営を無事に進めることができました。11月8日は天候に恵まれ、予定どおり花火を打ち上げることができ、夜空に広がる花火を見て大きな安心と達成感を得ることができました。

来年も小澤定明会長の思いを引き継ぎ、地域の皆さまに喜んでいただけるおまつりとなるよう、多くの職員と協力して取り組んでいきます。

(文責 事務員  
瀧澤麻奈)



「第26回めいろう大花火まつり」の司会を担当しました寺尾あさぎです。

今回司会を務めるにあたり、セレモニーにご列席いただいた皆様や、花火のご協賛を賜った方々のお名前を決して読み間違えることのないよう、実行委員の瀬谷和秀さんと何度も確認を重ねました。また、本番で言葉に詰まってしまうことのないよう、事前に台本を繰り返し読み、入念に練習を行いました。特に花火メッセージの読み上げでは、多くの方の想いや伝えたい気持ちが花火に込められていると感じましたので、その方々の言葉をお預かりするような気持ちで、心を込めて読み上げることを意識しました。

司会席は、さまざまな催しや花火を間近で見ることができる特等席だと思いました。緊張もありましたが、会場の皆さまと一体となって楽しむことができ、忘れられない経験となりました。このような貴重な機会をいただいたこと、心より感謝いたします。

(文責 就業支援担当  
寺尾あさぎ)



# 創業者の生きざまを尊び、 その志に永遠の光を



社会福祉法人光明会  
理事長 小澤 啓 洋

社会福祉法人光明会創業者である会長小澤定明は、病氣療養の末、去る令和7年11月12日、享年83歳にて永眠いたしました。小澤家および社会福祉法人光明会の合同葬にて執り行われました葬儀には1,000名を超える参列者の皆様にご弔問賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

ここに小澤定明会長を偲び、簡略ではございますが、会長のご生涯と光明会の歩みを振り返り、ご紹介申し上げます。

会長は昭和18年生まれ。千葉県立伝習農場卒業後、家業であった農業に従事し、昭和59年に民生委員・児童委員、平成7年9月から4期16年にわたり八街市議会議員を務められ、平成25年11月には旭日双光章の叙勲の栄に浴されました。

光明会創業の原点には、民生委員・児童委員として地域の困難を抱える方々の支援に尽力される中で、担当先の自宅に座敷牢が存在し、心を尽くして支援にあたられたにもかかわらず、その方が逃げるように転居されたという深い痛恨の出来事がありました。この経験を通じ、会長は

「いかなる境遇にあっても、人は誰しもお天道さまの下で堂々と生きられる世の中でなければならない。その世を自らの手で築くのだ。」

との強い志と覚悟を胸に刻まれました。光明会の礎は、まさにこの決意にございました。

その志を胸に、同志と力を合わせて平成10年10月に社会福祉法人光明会を設立。翌11年8月1日には知的障害者授産施設説明朗塾を開設され、会長の長年の願いが確かな形となりました。この第一歩を契機に、光明会は力強く歩み始めました。

現在光明会は、障害者支援施設説明朗塾をはじめ、十七のグループホーム、五つの通所事業所、二つの相談支援事業所を擁する法人へと成長いたしました。この発展はひとえに、会長が生涯にわたり私ども職員の精神的支柱として導き、温かく支え続けてくださった賜物であります。

一方で、気力充満の人生も加齢と病には抗しがたく、令和6年4月に肺がんと診断されました。発見時にはすでに末期に近い状態で手術は行えず、抗がん剤治療を続けられましたが、副作用に苦しまれる時期もございました。令和7年6月には、私、小澤啓洋が理事長を継承することとなりました。

しかし令和7年11月8日に開催した「めいろ大花火まつり」では、病を抱えながらも皆さまにご挨拶できたことが、会長にとって何よりの喜びでありました。その数日後、病院に戻られてから状態が悪化し、妻や姉妹、子、孫たちに見守られながら静かに息を引き取られました。

いまなお、広い空の下、トラクターや草刈り機を軽々と操り、先頭に立ち働かれていた会長のお姿が、ありありと脳裏によみがえってまいります。会長は、生涯をかけて「とことん人のために生きる」という信念を貫かれ、常に他者のため、特に困っている方々のために御身を尽くされました。その歩みは気高く澄んだ覚悟に満ち、私どもには到底及ぶことのできない、誠に立派な生きざまでもございました。

また、会長は折に触れて私どもに多くの教えを遺してくださいました。

「たとえ裏切られることがあっても、己は決して人を裏切るな。人の縁こそが己を生かす。」

「利口であろうとするな。愚直にあれ。笑われてもよい。信ずる道をまっすぐに歩め。」

「お天道さまの下で、まっすぐに、正しく生きる人間であれ。立派に生きよ。胸を張れ、負けるな。」と。

私ども光明会職員一同、会長の遺志を深く胸に刻み、これまで以上に心を一つにして障害のある方々の支援に尽力し、社会に貢献してまいります。

今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

# 花火を通じて人々に喜びや感動を！

## 地域とともに歩む花火屋さん「有限会社 鈴真」

社会福祉法人光明会最大のイベントとして、初めての秋開催となった「第26回めいろう大花火まつり」。今年もイベントを彩る美しい花火を打ち上げてくださったのが、佐倉市に本社を構える「有限会社 鈴真」さんです。今回は、有限会社鈴真4代目の鈴木義隆さんに、花火にかける想いを実行委員長の兼坂渉がお聞きしましたのでご紹介いたします。

### 【兼坂 渉】

花火師としての仕事を始められたきっかけについて教えてください。

### 【鈴木義隆さん】

有限会社鈴真は、私の曾祖父が大正初期に創業しました。花火屋が家業でしたので、小学生の頃から花火師になることは意識していました。学生の時に父の手伝いで自分の考えたプログラムの花火が夜空に上がり、お客様から歓声と拍手喝采が沸いた瞬間、心から感動を覚えました。その経験を通じて、直接お客様の反応を感じられる仕事の素晴らしさを実感し、花火の世界で生きていくことを決意しました。

### 【兼坂 渉】

有限会社鈴真様が大切にしている理念や想いがあれば教えてください。

### 【鈴木義隆さん】

一番に「安全第一」、そして「感動の創造」「地域、社会への貢献」を大切にしています。火薬を扱っているので、地域の皆様の安心・安全を最優先に考え様々な工夫をしています。伝統技術と新しい表現を融合させ、花火を通して地域の活性化やコミュニティの絆を育むことも目指しています。

### 【兼坂 渉】

社会福祉法人光明会のイベントにご協力いただいた経緯を教えてください。

### 【鈴木義隆さん】

前理事長の小澤定明会長の一言から始まりました。八街二区の夏まつりで花火を打ち上げて、帰り支度をしている時に小澤会長が「来年、俺のところでは花火を打ち上げたいから、やってくれないか」とお声がけをいただきました。その一言から今年で26回目を迎えました。

### 【兼坂 渉】

最後に花火を通して伝えたいこと、届けたい想いをメッセージとしてお願いします。

### 【鈴木義隆さん】

花火には人々をつなぐ力があります。地域のお祭りやイベントで打ち上げられる花火は、集まった人々に共通の記憶と感動を与えられると思っています。花火に込めるのは一瞬の美しさだけでなく、見る人の心に残る感動です。

今後も地域や福祉とのつながりを大切にしながら、花火を通じて人々に喜びや感動を届けていきたいと考えています。この光が皆さんの心に温かく響き、いつまでも心の奥に残りますようにと願いを込めて。

(文責 施設長 兼坂 渉)



右：有限会社鈴真 鈴木義隆様  
左：実行委員長 兼坂 渉



# 障害者雇用の想い



ランプハンドリング部 中津畑智氏 生産管理部人事採用課 松井哲至氏

## 一人の“人”として大切な仲間

## 株式会社エコーパートナーズ

昭和53年に「エコー商事株式会社」として産声を上げ、航空機内用おつまみのパイオニアとして各航空会社と取引を開始しました。その後、平成14年に空港事業を立ち上げ、グランドハンドリング事業に参入しました。そこから手荷物取扱業務や輸出貨物業務など、業務領域を拡大していきました。平成20年に社名を「株式会社エコーパートナーズ」に変更し、さらに業務領域を拡大していきました。今では、グランドハンドリングに限らず、旅客ハンドリング、航空機内食品販売など様々な事業を行っています。

全日本空輸株式会社がスローガンとして掲げている「あんしん、あったか、あかるく元気！」が意味する会社でありたいと考えている企業です。

(株式会社エコーパートナーズホームページ <https://www.echo-inc.co.jp/corporate-info/> より)

今回は、生産管理部人事部採用課 課長松井哲至氏、ランプハンドリング部1課 係長中津畑智氏にインタビューを行いました。

### みんなが話しやすい雰囲気作り

株式会社エコーパートナーズでは、現在療育手帳や精神障害者福祉手帳を取得された方が4名働いています。全日空社がスローガンとして「あんしん、あったか、あかるく元気！」を掲げており、その言葉のとおり、雇用形態などに関わらず、みんなが挨拶をはじめとするコミュニケーションを大切にしています。航空業界という職種柄、1つの小さなミスにより、お客様の荷物や命を危険にさらす可能性は常に隣り合わせです。だからこそ、挨拶・コミュニケーションを大切に、職場の空気感をよくすることで、なんでも話せる、報告できる環境作りをしています。障害のある方ない方の区別はなく、管理者も現場でみんなと同じ距離感で人間関係を構築していくことで、職場環境を作っています。最初は、どのように障害のある方と関わっていけば良いか悩み、考えすぎていましたが、一人の人として関わり、信頼関係を作れば良いと思い、コミュニケーションを取った結果が仕事の覚えが早いなどの付加価値に繋がるのだと感じています。また、この風通しの良さがクオリティや品質の向上だけでなく、職場の明るさ、仕事の楽しさにも繋がっています。



今日もあかるく、安全に頑張ります！



荷物を正しく、大切に運びます！

## Trial and Errorを繰り返して共に歩み続ける

現場の従業員はシフトで勤務をしているため、毎日同じ従業員が障害のある方々と一緒に働くわけではありません。だからこそ、障害のある方への配慮や関わり方など、全員に伝えていくにはかなりの時間を要しました。また、現在働いている方は、一般雇用の方と同じ仕事ができる能力があるため、つい“障害者雇用である”ということが薄れてしまっている状況がありました。

これらの状況を解決するため、言葉で従業員に伝えるのではなく、中津畑智氏自身が障害のある方と積極的に関わり、障害のある方々の盾となり、日々の業務を示されました。障害のある方との距離感を適度に保ちながら、Trial and Error を繰り返していくことで、ここまで歩みを進めてこられました。ここまでの歩みは、障害のある方々への教育よりも、周囲の方々へ理解を広めることの方により多くの時間が必要でした。今では周囲の理解も得られ、必要な配慮をしながら、一人の大切な仲間として働く雰囲気になってきています。

## もっと胸を張れる企業になりたい

当社では今、障害者雇用の受け入れの土壌ができてきました。今後、成田空港は滑走路が増えていくことなどに伴い、労働力がより必要になります。障害のある方それぞれに必要な合理的配慮はありますが、合理的配慮は行いつつも特別扱いはせず、障害のある、なしに関わらず一人の従業員として、一緒に働く仲間として受け入れていきたいと思っています。

障害者雇用を受け入れることで、職場全体を見直すきっかけになり、楽しく仕事を覚える喜びや仲間と一緒に仕事をするに関して、改めての学びが多くあり、職場も明るくなりました。障害のある、なしに関わらず、みんな同等に関わることで仕事の楽しさやモチベーション、向上心が得られると思っています。この雰囲気は、労働力が今以上に必要な状況であったとしても大切にしていきたいものです。

## 雇用前の情報収集が不安を軽減させる

最初は、障害者雇用はいろいろな面で大変というイメージを持っていました。企業向け交流会や就職フェアなど、様々な場所に足を運び、他企業や支援機関とのパイプ作りから始め、支援機関に自分たちのことを知っていただき、他企業から取り組みのヒントをいただくことなどを通して、障害者雇用の空気感を味わうことから始めました。いざ障害者雇用を進めていくと悩むこともありましたが、“どうしたら良いか”など、障害のある方や企業の中で、みんなで一緒に考えていくことを繰り返していきました。その結果、障害のある方のできることに気づき、楽しく仕事を覚える喜びや仲間と一緒に仕事をするということを改めて学び、職場全体を見直す良いきっかけにもなりました。

障害者雇用は最初、大きなハードルと感じるかと思います。ですが、その大きなハードル、大きな1歩を踏み出すことができれば、次の一歩のハードルは大きく下がると思います。自分たちが足で情報を稼いでいくことで、障害者雇用に関する知識を増やし、支援機関などとのパイプができることで、自分たちも安心できますし、100%のうちの1%でも光が見えてくることで雇用に繋がったのではないかと思います。障害のある方は、時間をかけて信頼関係を築いて行くことで、ご本人の隠れたパワーが発揮できるようになり、職場でも活躍してくれる存在になります。そのためには、まず自分たちが勇気を持って大きな1歩を踏み出すこと、一緒に考えていくことが大切だと思います。これからも、いろいろな働き方の模索などもしていこうと考えています。

(文責 主任就業支援担当兼精神担当 藤井佳奈)

# 働くことで社会に貢献する生き方を得る

## 第104回お客様感謝デー・就職表彰式

第104回を数える今回の「お客様感謝デー」は、令和7年9月20日(土)に佐倉ミレニアムセンターを会場に「就職表彰式」を開催しました。毎年9月に開催される「就職表彰式」は、就職後1年以上勤務を継続され、社会に貢献されている障害のある方に対して、当法人から最大の敬意をお伝えしたいという想いで行っています。今年は就職するなら明朗アカデミー・成田キャンパス、佐倉キャンパス、白井キャンパスの合同企画で、総勢50名を超える方々に参加していただきました。

最初に各キャンパスから、就職者の代表1名ずつに登壇していただき、勤務を継続するために大切なことを質問に答える形でお話ししていただきました。

質問では、①長く仕事を続けるコツはなんですか。②体調が悪くなりそうなときはどうしていますか。③職場の人と仲良くするにはどうすればいいですか。これらの質問への回答の中で特に印象に残ったのは、わからないことはすぐに相談することや、他のスタッフとの距離間を考え話し過ぎないようにすることなど、自分本位ではなく、周囲のことも考えて行動されているとのことでした。これから就職を目指す方々にとって、大変有意義なアドバイスになったことと思います。改めて登壇してくださった3名の就職者に感謝の意を表します。

その後、社会福祉法人光明会理事長小澤啓洋より、勤続記念表彰として、働くことで社会に貢献する障がいのある方々に表彰状を授与いたしました。



登壇者3名の方より、働くために大切なことをご発表いただきました



小澤啓洋理事長より表彰状授与

「就職表彰式」終了後は、各キャンパスに分かれてランチやゲームを楽しみました。成田キャンパスは、成田駅近くにあるホテルウェルコにて豪華ランチに舌鼓を打ち、白井キャンパスは就職された方が働いている牛角に行って焼肉ランチを楽しみました。佐倉キャンパスは、事業所において楽しいビンゴ大会を行いました。今から次年度の開催が大変楽しみです。

(文責 就職するなら明朗アカデミー・白井キャンパス 事業管理者 高木夢貴)

# ダイバーシティ採用の第一歩を踏み出す

## 令和7年度 企業向け交流会

障害者就業・生活支援センター 就職するなら明朗塾では、障害者雇用をしている企業や障害者雇用を考えている企業等を対象に、担当者同士のネットワークの形成や支援のノウハウを高めることを目的とした「企業向け交流会」や「企業向け見学・相談会」を企画・開催しています。今回は、年に4回開催している「企業向け交流会」についてご紹介いたします。

「企業向け交流会」は、企業の障害者雇用担当者を対象に開催しています。令和7年度は「働き方の多様性を考える戦略セミナー」と銘打って、全4回のシリーズで企画しました。令和7年10月22日に開催した第1回では「ダイバーシティ採用の第一歩を踏み出す」をテーマに、アシザワ・ファインテック株式会社 管理部 人事総務課 人事総務グループ グループ長の宮下絢氏を講師にお迎えしました。

当日は、障害者雇用を0から1に、そして地域の見本となる障害者雇用を行っている会社を目指して、これまで取り組まれてきたご経験についてお話ししていただきました。お話しの中には、障害のある方が会社の中で戦力となるために職場でどのような工夫ができるのか、障害のある方の強みを見つけ、職場環境や手順の改善等への取り組みだけではなく、これまでの苦労話や失敗談などもユーモアを交えてお話ししていただきました。また、障害者雇用を進めていくにあたり、障害のある方の訓練の様子を見に行くことや社内での勉強会などのお話のほか「誰でも最初は初心者。困った時は支援機関と連携をして1つずつ解決して進めばいい！」と参加者にエールを送られていました。当日参加していただいた方々は、これから障害者雇用を行っていくと準備をしている企業や障害者雇用の経験が少ない企業の担当者が多く、力強い声援となったのではないのでしょうか。

講演の後は、数名ずつのグループになり、企業の担当者同士での交流の時間を設け、それぞれの悩みや疑問点などを共有する場を作りました。宮下氏には各グループにも参加していただき、講演では伝えきれなかったお話や担当者からの質問などにも答えていただきました。

今後も様々な観点からのテーマ設定で企画をしていきますので、皆様のご参加をお待ちしております！



講師：宮下 絢氏



各グループの話し合いにも参加していただきました

### 当日アンケートの一部をご紹介します

- ◆何もわからないところからの参加だったため、大変勉強になった
- ◆作業の切り出しに、みなさん苦勞されていることが分かった
- ◆障害のある方の特性に合った業務内容の振り分けや、支援機関との連携が重要だと感じた
- ◆障害のある方のメンタルが崩れたときなども支援機関を頼っていいんだと気づいた

(文責 主任就業支援担当兼精神担当 藤井佳奈)

動物とふれあい・思い出たくさん・成田ゆめ牧場  
 明朗塾・インディペンデンス合同開催 第104回お客様感謝デー



お客様から「外出したい」とたくさんの声がありましたので、今回のお客様感謝デーは、成田ゆめ牧場を満喫する企画をしました。当日（令和7年9月24日）は天気にも恵まれ、秋の穏やかな気候のもと、動物との触れ合いや名物のソフトクリームを味わうこと、芝滑りを楽しむことなど、それぞれが思い思いに充実した時間を過ごすことができました。100名近くの参加者がいる外出行事を企画する大変さを感じましたが、それ以上に「楽しかった」、「また行きたい」といった声を聞くことで、やりがいを感じることができました。今後も皆さまの思い出に残るような楽しい企画をしてみたいです。

（文責 サービス管理責任者 森田拓実）



誰もが働きやすい職場づくりの実践

このたび、社会福祉法人光明会は、厚生労働省より「もにす認定※」を受けました。本法人は、八街市で初めての認定法人となります。これまでの取り組みは、地域企業の皆さまや関係機関の皆さまの温かいご支援、そして職員一人ひとりの努力の積み重ねによって実現したものです。この認定を励みに、今後も誰もが自分らしく働ける社会の実現を目指し、支援の質を一層高めてまいります。

（文責 総務部長 鈴木幸子）

※もにす認定制度は、正式には「障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定制度」と呼ばれ、2020年に創設されました。この制度は、障害者雇用の促進と安定を図るために、特に優れた取り組みを行っている中小企業に対して認定されます。企業と障害者が、明るい未来や社会の実現に向けて「ともにすすむ」という思いをこめて、愛称を「もにす」と名付けられました。



左：千葉公共職業安定所 所長 神子真二様  
 右：社会福祉法人光明会 理事長 小澤啓洋